

福島県地域創生・人口減少対策有識者会議現地調査（二本松市東和地区）概要

実施日：平成28年8月3日（水）

場 所：二本松市東和地区

参加者：福島県地域創生・人口減少対策有識者会議委員 9名

（岡崎座長、赤松委員、石山委員、日下委員、須貝委員、関委員、高橋委員、西内委員、森川委員）

1 道の駅「ふくしま東和」見学（11:00～13:00）

- NPO 法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会 武藤理事長及び大野副理事長より法人の取組について講話。



- 主な内容

- ・移住者対策には行政と個人の間くらい組織が必要であり、移住者に対しても地域に「何ができるか」と問いかけることや、「有機農業やりませんか」などターゲットを絞り込むことも必要。当法人では原則的に研修を実施し、どういう人物か見定めを行っている。
- ・廃校を利用した6次化（桑パウダー）をサポーター事業により進めていく。
- ・コミュニティを守りながら、人生をどう作っていくか、幸せをどう守っていくかということが大切。

2 めぐり農園見学（13:10～14:00）

- Iターンにより農園を経営する小林氏の移住の経緯や養鶏に対する取組や思いについて講話。



○ 主な内容

- ・東和のモノだけを使用した餌を提供。動物性のモノは一切使用せず、平飼で飼育している。ここでしかできない養鶏を実践。田の6割で飼料米（コシヒカリ）を作っている。

3 ふくしま農家の夢ワイン見学（14:30～15:30）

- ふくしま農家の夢ワインの取締役である関委員より当該法人の取組や「あぶくま農と暮らし塾」に関する取組について講話。



○ 主な内容

- ・遊休農園（桑畑）の活用からブドウ作りを始め、醸造までするため組織を設立。
- ・地元にあるもので、地元の人でやれることを楽しみながらが基本。
- ・コミュニティには交流の場のため、移住者が農業を学ぶ場として「あぶくま農と暮らし塾」を開講。若者が集って夢を語る場として提供。
- ・養蚕からの流れで東和地区は団結心が強いところ。共助ができるところ。

○ 全体総括

- ・ゆうきの里は実にパワフルで全国的にも最先端の取組。
- ・条件不利地域において、地元を知らない役場職員もいる。従前は役場がセーフティネットであった。住民でどのように維持していくか、その仕組みが大事である。
- ・夢ワインのようにみんなで楽しもうがベースの取組は安心感がある。
- ・地域の良さをどうやって活かしていくか。幅広い視点を念頭においてやっていくことも大切。